

Hyper Ing 2011

(“Hyper Ing”は上高生を応援する先輩メッセージ“Ing”のパワーアップ号です)

上野高等学校進路指導部 vol. 6 2011/9/30

上高の「花道の先輩」ドキュメント その3

上野高校を巣立った先輩たちがどのように学生生活を送っているのか、進路主任の富澤が大学を直接訪問してお話を伺いました。第3回は2011年6月27日、津市にある三重大学を訪れました。

第3回：自分の位置を自覚したとき勝機が生まれる

三重大学 教育学部 学校教員養成課程社会科コース 1年 永井柁輝さん



大学生協前のフリースペースで 向かって左が永井さん 右は同じく卒業生の工学部機械工学科1年 菊山晋平さん

◇広大な敷地の総合大学

——今日は会議で三重大学にきました。会場の三翠ホールまで、正門から歩いて10分以上かかりました。その後この第一食堂前の広場にきましたが、5分以上歩いています。しかし広いですね。

永井 TDLと同じ広さという噂です(笑)。バチカン市国ぐらいの話もあります。

(编者調べ…TDL: 5.1ha TDS: 4.9ha バチカン市国: 4.4ha 三重大学: 5.5ha)

——構内の至る所に駐輪場があって自転車だけですが(写真)、自転車通学生が多いのですか?

永井 たぶん江戸橋の駅からだと思います。駅から歩くと20分はかかります

菊山 僕は駅まで徒歩6分で行けます(笑)。駅前に自転車をおいておくのは不用心ですから。

——授業を見せてもらおうと結構色々ありますね。菊山さんの「キャリア研修」ってもう就活ですか?

菊山 これは夏休みにある「熟議」という三重大学が主催するイベントの準備です。そのためのいろいろな段取りを

しています。僕もファシリテーターとして参加しますから是非見に来てください(笑)。



——「フレッシュマンゼミナール」というのは？

菊山 ゼミの紹介です。工学部の各学科は多くのゼミに分かれています。希望に応じて2つまで見学できます。これを参考に所属するゼミを考えます。どのゼミに所属するかは希望に応じて振り分けられますが、人気のゼミは成績順です。第二希望を書かないと空いたところに回されてしまいます。機械工学科はメカトロニクス、システム設計、生体システム工学が人気です。前の二つは機械とプログラムと回路設計が同時に学べるところが利点です。生体システム工学の人気の理由は詳しく言えないのですが別のところにあります(笑)。

永井 僕の「社会科入門」という講座も同じです

(写真)。日本史や地理などゼミの紹介を持ち回りで行っています(写真)。あと「4つの力」という1年生必須の授業があります。これは教育学部の他学科の学生と班になってテーマを決めて発表を行います。それ以外は憲法と情報が必要で、人文系・社会系・自然科学系から一般教養科目を選択します。僕は数学がためなので自然科学系は生物をとっています。医学部の先生が担当で、この間は癌の摘出の様子を映像で見ました(一同「え〜」)。

——いかにも総合大学ですね。第二外国語はポルトガル語ですか？

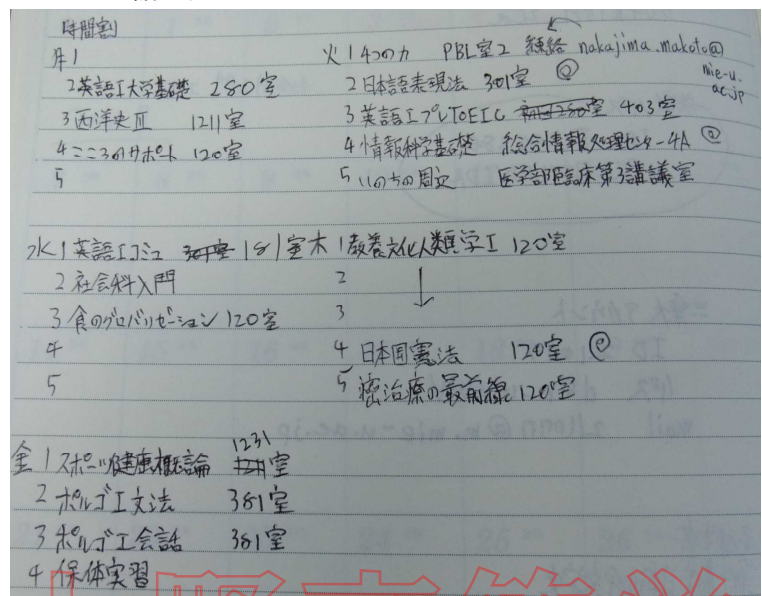
永井 三重大は多くの言語を選択できるのですが、教育学部生のほとんどは中国語かポルトガル語です。三重県の小中学校の現場に行くとブラジル籍の生徒が多いから先輩に勧められました。

——英語は TOEIC®が中心みたいですね。大学のパンフにも重点目標みたいに書いてあります。

永井 入学していきなり TOEIC®のテストがあり、その成績順で英語の授業が輪切りにされます。上野高校の授業と比較すると、リーディングは同じレベルでちょっと文章量が多い程度です。リスニングはスピードが速いですね。文法はぬるいです。授業中に TOEIC®の対策勉強をしています。上野高校の英語の方が難しいです。

——TOEIC®の文法は中学卒業程度です。でも語彙はビジネス系で馴染みが薄いし、リスニングは1度しか聞かせんから慣れるまではついて行くのが大変ですね。

永井 ぬるい割には授業中に学生が「わかりません」を連発しています(笑)。



◇意外と知られていない三重大の良さ

——さて永井さんが三重大を志望したのはいつぐらいからですか？

永井 1年の時は工学部志望だったんですよ(笑)。でも化学がちゃんかんふんで、1学期の期末試験が26点！それで教員でも目指そうかと。国語が社会か入れる方にしようと考えていましたが、世界史が楽しいので社会科に進もうと考えました。しかし定員の少なさ(11人)に愕然としましたね。合格できるのかと。

——そういう理由なら別に県外の教育学部とか別の学部でもよいのでは？

永井 僕は県外に出るつもりがなくて(笑)。下宿とか嫌なんですよ。それに三重県で教員がしたいと思ったし、大阪教育大学は通学できるけど単科大学だし。総合大学の中の教育学部という点に魅力を感じました。教育学部の教員就職率も全国の教育大学では上位だという話です。

(编者調べ：教員養成課程(48大学)のうち8位(2009年度)13位(2010年度)…文部科学省のHPによる)

——それで入学した現在、三重大学の印象はどうか？

永井 社会教育コースは教授と学生の距離が近いです。ゼミは1年から4年、院生と全員で行われます。元々コースの学生が少ない中にゼミが複数あるので、各学年同じゼミ生は1～2名、トータルでも学生10名に教授1名という環境です。

——それは国立の文学部並み。恵まれていますね。ゼミの当番もどンドン回ってくるから力がつきます。

永井 教育学部は縦の繋がりが強くて、たとえば先輩たちから授業の取り方を丁寧に教えてもらえます。コースのみんなで単位数を18～19に揃えたりとか。イベントもたくさんあって、この間は榊原温泉に1泊2日で行ってきました。教授は人づかいが荒いし、「君たち1年生は未成年だから僕が代わりに飲んでおこう」とか(笑)。



～初等社会科において地理学の専門知識は必要か？～

まあ、中学校社会で地理の専門知識がそこそこ必要なことはいうまでもないとして、**小学校の教科書で、地理的分野はどのように扱われているのだろうか……？**

菊山 機械工学科はそういうのはないですね。授業をとるのもすべて自分で考えます。人数が多いから「あの人機械工学科だったんだ」ということもしばしばです。

永井 教育学部は各専攻の人数が少ないので、授業休むと「何休んでんねん！」って電話かかってくるし(笑)

——総合大学の利を活かした共通教育、少人数で教科の専門性を重視する。それで芯のしっかりした学生が育ち、その結果教員採用試験に強いということですね。同じコースの学生さんはどんな感じですか？

永井 僕以外の学生は県内では津、桑名、伊勢。愛知県だと岡崎高校とか明和高校とか、「難関大学合格者数ランキング」に出てくる顔ぶれです(笑)。真面目な人ばかりで、名古屋とか神戸が第一志望だったという人が半数以上ですね。点数開示によると、僕も中島君(数学コース)もセンターの点数はトップで、二次は最低ラインでした(笑)。

——岡崎高校って毎年東大100人以上合格の学校です

よね！ 成績が思わしくなくても三重大学は合格するみたいなの。

菊山 工学部ではそういう学校出身の学生はあまりいません。定員が大きいからかいろいろな人がいます。E判定で合格とか、僕みたいにAOの合格者とか(「菊山君は普通に受けても楽々合格したのに！」との声)。

◇「弱者」の戦術

——受験勉強はいつ頃から始めましたか？

永井 2年の2学期の期末が終わった後、そのままのリズムで勉強を始めました。英語の各週テストを毎回8割キープ、ネクステージも毎日やりました。世界史は時間がかかると思ったのですぐに復習を始めました。

——受験勉強の基本は既習範囲の復習です。3年の夏休み前に文法や語法を一通り終わらせるのはセオリー通りですね。夏休みからは？

永井 まず副教科から片付けました。世界史、現代社会、生物をまず完成させて、次に国語、数学、英語に取り組みました。夏休み明けには副教科で模試7割をキープしつつ、英語を7割目標、10月ぐらいから数学を本格的にやりました。

——正直その勉強方法はイレギュラーですね。夏休みに個別試験に必要な国語と英語の記述力を高めて、数学は文系の関門、センター試験の数ⅡBの演習をするのがノーマルなプランですが。国語はどうしましたか？

永井 国語は現代文の勉強はあまりしていません。古文は単語と文法、特に助動詞の判別、漢文は反語などの句法、

三重県立上野高等学校

返り点、置き字など漢字の意味の理解を中心にやりました。上野高校には助動詞が怪しい生徒が多いのに、授業や補習は読解が中心なので、何か対策をした方がいいと思います。

——それは「国語はセンター試験だけ」という理系生徒の学習法ですね。永井さんは世界史と生物が得意ですから、マーク模試では大崩れしません。しかし文系は二次も視野に入れて国英で点数を稼げるようにしたいものです。なかなかボーダーに届かなかったのでは？

永井 とにかくセンター試験の勉強で手一杯でした(笑)。最後の模試でもまだ30点ぐらいボーダーに届きませんでした。本番で数学が二科目とも70%を超えてやっと間に合ったという感じです。

——センターで76%を確保はしたものの、三重大学は個別試験の配点が高いので、逃げ切るにしても個別試験では6割近くの得点が必要です。二次試験の勉強はどうしましたか？

永井 三重大学の英語はセンター試験の後半部分を筆記にしたような問題です。三重大学の過去問をした後『全国入試問題正解』で似た傾向の過去問をやり込みました。国語も同様です。ただ今年は国語の試験時間が長くなり、古典の文学史が出たのには参りましたが。センター対策の勉強をするときから「これが記述試験になる」という意識で取り組んでいました。

——例えば英語の過去問だと、センター試験と同程度の英文をしっかりと和訳できるかが問われています。三重大学は学生が「センターの学習を単なる『当てもの』としてではなく丁寧に取り組んでいたか」を見ているようです。永井さんが自分の強みと弱みを理解して、志望大学の傾向を分析し、その傾向に絞った勉強をやり込んだ訳ですね？

永井 僕は富澤先生がHRで言ったことが強く印象に残っています。「上野高校の平均偏差値は49程度。つまり上野高校は全国平均の学校に過ぎない」と言いましたよね。

——50を下回っているから正確には「全国平均以下」ですね(笑)

永井 上野高校は「地元一番校」というムードがあるから、生徒の多くは「勉強を始めるのが遅くなくても本気をだせばすごい力が出る」みたいに考えてしまいます。でも今三重大学で同じコースに通うスーパー進学校出身の学生は、3年の夏休みも部活に費やしたとか、センター試験で大失敗した人で、それでも逆転できるだけの地力を持っています。上野高校で彼らと同等の力があるのは僕の感覚だと京都大学に合格したあの2人ぐらいじゃないかと(笑)。安全ライン73%の三重大学にもそういう地力のある生徒が少なからず受験しにくるのです。だから僕みたいに上野高校の文系で30番ぐらいの生徒は彼らほど学力が高いわけではない。力のない者なりの勉強の進め方、戦い方があると思います。

——そのことは上高生が心に留めておく必要があります。自分なりに試して効果があった学習法な？

永井 世界史は参考書を読んですぐに問題を解きました。英語はパラグラフリーディングです。それから英単語・文法を繰り返しやりました。苦手に時間をかけすぎないことも重要だと思います。

——最後に後輩にメッセージをいただけますか？

永井 3年生の12月から2月にかけての一番しんどい時期、僕の周囲でも受験科目を減らしたり、私立に志望変更する人たちがでてきました。でも僕の場合は私立に同様の学部がない、「三重大学でいいや」ではなくて「三重大学じゃ

なきゃだめ」だったのです。将来の夢から逃げたくなかったですね。

——まずは将来の目標、そして受験は自分との戦いですね。ありがとうございました。



合宿で。向かって左が永井さん。